

平成12年12月8日

文化庁長官
佐々木 正峰 様

(社) 日本芸能実演家団体協議会
会長 野村 萬

三味線の胴皮の確保に関する要望

－日本の伝統音楽の継承・発展のために－

俳優、音楽家、舞踊家、演芸家など芸能実演家61団体（56000名）で構成する弊法人は、昨年12月17日付、文化庁長官宛に要望書「三味線の胴皮の確保に関する要望－日本の伝統音楽の継承・発展のために－」（別紙添付）を提出いたしました。

伝統楽器の多くは、高度に磨き抜かれた製作技術によって支えられており、楽器製作には何よりもまず原材料の安定した供給が不可欠です。ところが、残念なことに、近年の社会環境の変化とともに、原材料の入手難は深刻化の一途をたどっており、最高の演奏を具現するために必要な良質の楽器を入手することが難しくなりつつあります。とくに、江戸時代以降に成立したほとんどすべての芸能に共通して用いられる三味線に関しては、ことに重篤な危機的状況に陥っております。

私どもは、昨年「動物保護及び管理に関する法律」の法案審議の段階で衆議院において成されました付帯決議の徹底と文化財を支える用具や原材料の安定した確保が図られるような制度的措置を講ぜられますよう切望いたします。

以上